

委員質問・意見等

(12月3日) 受付分

※3月定例会での回答として延期

(高桑委員)

● 東京電力(株) に対する 質問

柏崎刈羽原発の津波想定引き上げに関して

11月20日の新規規制基準適合性に係る審査会合で、津波想定6mを6.8mを引き上げた、との報道がありました(11月21日・新潟日報)。

想定引き上げの理由は「新しい海底調査の結果を反映」とのことでしたが、津波想定を引き上げた具体的説明をお願いします。

(2月3日) 受付分

(池野委員)

● 原子力規制庁、新潟県、柏崎市、東京電力(株) に対する 質問

「保養」についてどう思うか、様々なオブザーバーの方々から考えをおききたいです。

ぜひ、やって欲しいのですが、やる気はあるのでしょうか？

被ばくで苦しんでいる子どもたちのことを真剣に考えたことはありますか？

※保養とは・・・子どもたちが健康を取り戻すための合宿のようなもの。1986年、チェルノブイリ原発事故を経験したベラルーシでは今も年間10万人の子どもたちが保養を受けています。

[鎌仲ひとみ監督 最新作「小さき声のカノン」より]

保養については、現在、福島に残されて避難できない辛い立場にある、福島の親子のことです。家庭の事情で避難したくても避難できず残っている家族がたくさんいます。ベラルーシでは強制避難区域に指定されているのと同じ高線量の地域に残って生活している子どもたちが心配です。

友人で保養を企画、運営しているかたもたくさんいます。みな、ボランティアで行っていますが、長く続けていくためには費用の面で補助があると助かります。ベラルーシでは国営の保養施設があり、無料で子どもたちは1ヶ月使用出来るとのこと。日本でも、東電や国、県、市町村で保養事業が進むことを希望しています。

よろしく願いいたします。